

平成23年度 総会・懇親会 開催

平成23年11月11日(金)午後6時から
千代田区平河町の都市センターホテルにおいて、
東京岐阜県人会平成23年度総会が開催されました。



あいさつする立川新会長

総会は、山本康夫理事の司会で始まり、この8月の理事会において、2期4年の任期を了え、名誉会長に就任された加藤重義前会長から4年間の業績を振り返りつつ、「その間の会員各位のご協力に対する謝意、今後の県人会の一層の発展に対する祈念」などが述べられました。

続いて、立川敬二新会長から「加藤前会長が引かれた路線を守りつつ、県人会の発展に努力する旨」の抱負が披露されました。その後、立川会長が議長となり、小林久三幹事長より説明が行われた提出議案について、慎重に審議した結果、全ての議案が満場一致で原案通り可決承認されました。

これに伴い、第3号議案の「東京岐阜県人会規約の一部改定」にもとづき「名

誉顧問」のポストが新たに設置されることになりましたが、新しい名誉顧問には、さる8月26日に開催の理事会の推薦にもとづき神谷一雄、椎名武雄両氏が就任されました。両氏には、これまでの会長、名誉会長のご経験や識見を県人会のために引き続き活かしていただくことになりました。



熱心な議案の審議

午後6時半からは、懇親会に移り、オープニングは「ぎふの宝もの」の一つである東濃の地歌舞伎の上演。上海万博でも上演されたという、白浪五人男になぞらえて岐阜の郷土自慢を綴った興味深い作品が披露されました。

その後、立川会長並びに古田肇岐阜県知事から挨拶を頂きました。古田知事からは、新旧会長への慰労と期待のお言葉、平成24年開催の「ぎふ清流国体・ぎふ清流大会」への取り組み、「飛騨・美濃じまん運動」の展開とその一つがこの東濃の地歌舞伎であること、リニア新幹線の中間駅候補地に中津川市西部が選ばれたこと、企業誘致が好調なことなど、「岐阜県ファンクラブ」や「ふるさと納税」



立ち並ぶ岐阜「九蔵」の銘酒の数々

東京岐阜県人会



東濃地歌舞伎「白浪五人男」

への協力のお礼と共に県内の明るい話題をご披露いただきました。

懇親会には、会員約200名をはじめ、国會議員、地元市町村長など多くの来賓の方にお越し頂きました。宴には、今年も「ぎふ清流国体・ぎふ清流大会」のマスケット「ミナモ」くんが花を添えてくれました。また、昨年続き飛騨牛専門店「馬喰一



代」の食事券が当たるじゃんけん大会を実施しました。最後に1人が権利落ちとなる白熱したじゃんけん大会が繰り広げられました。

ホテルの食事に加え、飛騨牛のローストビーフ（馬喰一代提供）・みたらし団子・五平餅・鮎の甘露煮など郷土色豊かな料理と地酒が振る舞われましたが、今年は更に美濃加茂市出身の料理研究家長尾さんが美濃加茂市の協力を得て郷土の食材を使った自然派の料理を提供下さり、一味変わった趣向が楽しめました。県産品の販売コーナーも盛況にて完売、大いなるさと岐阜を楽しんだ一夜となりました。



こも豆腐



所狭しと並んだ郷土料理



ヤマトジュース（下呂市）、消しゴム（多治見市）などをお土産に、午後8時半名残惜しくお開きとなりました。